

### 地域で考える防災

道仏集会所に地域の皆さんが集まり、7月23日に災害図上訓練(DIG)が行われました。主催したのは道仏1区と道仏3区の自主防災会。合同開催です。

この訓練では複数人でテーブルを囲み、白地図の上に災害が発生する前の備えや、いざ発生した時の状況を書き入れていきます。

「利根川が決壊するとここまで水が来るのね」「まず、助けに行ける人の優先度をつけよう」

町が発行したハザードマップで確認し、参加者同士で話し合いながら一緒に考えていきます。

参加者の一人は「災害が起きてから考えるのではなく、日常から考えておくことが大事だと痛感した」と話してくれました。

大事なのは、みんなが参加して繰り返し実施すること。今後もいろいろな手法を取り入れなが

ら毎年実施していきたいと道仏1区自主防災会長の金子さんは話してくれました。

### 自主防災組織リーダー

宮代町では地域の防災力強化を目的として「自主防災組織リーダー養成講座」を継続的に開催しています。平成19年からの受講者数はのべ168人になります。

受講者は1日ばかりで、防災の知識、実践力を学びます。受講生が各地区の自主防災組織に戻って、今度は自らが指導者になって防災の主役になってくれば、そのことで町全体の防災力が高まる。町ではそう考えています。

ここで紹介できなかった各自主防災組織主催による防災訓練や研修の様子は町ホームページで紹介しています。ぜひご覧ください。

〈記事ID 21757〉



令和5年度に入り、各地区で自主防災組織主催による防災訓練や研修が開催されています。地区防災訓練の開催のご検討やご質問のある地区・自主防災会がありましたら、町民生活課危機管理担当までご連絡ください。

# 地域の防災を 地域のみんで 考える

問 危機管理担当  
34・1111  
内線279  
2-16



### 宮代町地域防災訓練

地域の防災力の強化を目指して今年度は10月15日(日)に百間小学校で開催されます。「起震車」による地震体験、消火訓練の他、防災グッズの展示や消防車や自衛隊車両の写真撮影・乗車体験ができます。詳しくは10月号でお知らせします。ぜひご参加ください。



### ともに地域で協力しあって

道仏1区、3区では毎年、2つの地区が合同で自主防災訓練や防災研修を開催しています。コロナ禍で中断していましたが、1年おきに1区、3区が交代で主催して実施しています。

道仏1区自主防災会長の金子区長、道仏3区自主防災会長の酒井区長(左から)は「隣あった地域と一緒にやることで長続きするし、負担も減る、また地域の共通課題も同じなので、メリットは多い」と話してくれました。



### 地域のつながりを大切に

「最近では地域のつながりも希薄になっているが、向こう三軒両隣の意識を高め、防犯や防災、地域の活動に関心を持ってもらえば」と話してくれたのは埼玉県自主防災組織リーダー養成指導員の小島さん、金子さん(左から)。

お二人は埼玉県の研修を受けた、町内で活躍するベテラン指導員。地域で行われる防災研修の指導役です。

今回の道仏地区で行われた災害図上訓練でも講師とともに、活躍いただきました。



**ハザードマップには  
災害を「知る」ための情報が掲載されています**

- ・マイ・タイムライン※漫画の下に説明
- ・非常時持ち出し品・備蓄品の例
- ・避難所一覧
- ・河川浸水想定区域図（利根川、大落古利根川など）
- ・地震揺れやすさマップ



〈記事ID 16129〉

ハザードマップは町の公共施設などにあります 役場、宮代消防署、和戸公民館、百間公民館、川端公民館、進修館、図書館、郷土資料館、ぐるる宮代、はらっパーク宮代、保健センター、六花、すてっぴ宮代、無印良品 ほか

**事前の準備を忘れずに**



**マイ・タイムラインを作ってみよう**  
 ※マイ・タイムラインとは  
 (ハザードマップ 4p)  
 ●災害発生時点から時間をさかのぼり、一人ひとりがかかるべき防災行動のタイミングを整理するための行動計画表です。

●「わが家の備え」では、例示された内容を参考に、家族構成などを踏まえた各家庭ごとの行動計画を記入することができます。ぜひ、家族で相談しながら実際に記入してみましょう。



赤松浅間神社前(字山崎)は臨時の舟着場となりました。

**カスリーン台風と宮代**

今から76年前の昭和22年、カスリーン台風により利根川の堤防が決壊しました。当時の須賀村では備前前堀川、備前堀川が氾濫、百間村でも古利根川が氾濫しました。

現在の東武動物公園駅(旧杉戸駅)のホームは「港のふ頭のように」水でいっぱいになり、市街地には牛や鶏、材木が次々に流れてきたそうです。

当時の記録では、須賀村のほぼ全世帯、百間村の87%の世帯が浸水の被害を受け、水に流されて命を落とした人もありました。

この時、活躍したのが須賀村、百間村の青年団でした(上写真)。舟による物資輸送や救難活動で活躍したそうです。山崎地区では移動や物資運搬の手段を失ったため、青年団により、地区と駅を往復する舟を運行したという記録が残っています。(写真は宮代町史編纂より)



昭和22年のカスリーン台風による利根川の堤防決壊では宮代町も大きな被害を受けました。赤い線は当時の浸水の深さ2.3メートルを示す電柱。